

キミのCODEが未来を変える

**GUNMA
PROGRAMMING
AWARD**

GUNMA PROGRAMMING AWARD

ぐんまプログラミングアワード

2022実施報告書

主催：上毛新聞社

共催：ぐんまプログラミング教育推進協議会



GPA2022 実施報告



CLIMB
CLIMB CO.,LTD.



コシダカ ホールディングス

J!NS



株式会社 **アイエムエス**



共愛学園前橋国際大学
KYOAI GAKUEN UNIVERSITY



群馬県システムリーベィス株式会社



先進技術の通信&電気
株式会社 **群電**



株式会社 **ジーシーシー**



株式会社 **シャ-コードキュメント富士**

JOETSU
期待を超えるマーケティングサービスを



情報システム株式会社

TAIYO YUDEN

CHUO
中央カレッジグループ



株式会社
テクノソレイユ

docomo
株式会社ドコモCS 群馬支店



NITTO SYSTEM
TECHNOLOGIES



planning
株式会社プランニング



PROCODES



試験と計測の
ペリデック



株式会社 **両毛システムズ**

(順不同)

事業計画・スケジュール

	ジュニア部門	アプリケーション部門	IoT部門	テクニカル部門	
概 要	「Scratch」で作成したゲームや動画などのソフトのアイデアを競います。	未発表のオリジナルアプリケーションのアイデアを競います。	未発表のオリジナルIoT機器のアイデアと完成度を競います。	プログラミング問題の正答数と解答スピードを競います。	
区 分				一般	高校生以下
対 象	群馬県内に在住または在学する小学1年生～中学3年生	日本国内に在住または在学する小・中・高校生・大学生・専門学校生で24歳以下の方（ただし、大学4年生まで。大学院生不可）			日本国内に在住または在学する小・中・高校生で18歳以下の方
	個人または3人までのチーム				
エントリー方法	公式ホームページ（https://gp-award.jp）の応募フォームより				
内 容	プログラミングに興味を持ったきっかけや、制作したソフトのアイデアなどを書いてください。「Scratch」作品の画像や保存URLがあれば、併せてお送りください。	アプリケーションの開発を前提とします。アプリによって解決したい課題や、サービス内容等のアイデアを画像と文章で示してください。 ※応募の時点でUI・UXを表現できる画像を発表できること、2次審査の時点でMVP（必要最小限の能力を兼ね備えたプロダクト）を発表できる状態にあることが推奨されます。	IoT機器の開発を前提とします。機器によって解決したい課題や、実装したい機能等のアイデアを画像と文章で示してください。 ※2次審査の時点でプロトタイプの実機デモンストレーションを発表できる状態にあることが審査の条件となります。	プログラミングに関するこれまでの経験、実績、スキルを記載してください。	
1次審査	書類審査				
2次審査 ※1	作品のプレゼンテーション（デモンストレーション、動画等含む） ※3分間以内	開発するアプリケーションの動作イメージが分かる、画像や動画をを用いたプレゼンテーション。 ※4分間以内	開発したIoT機器のデモンストレーションを交えたプレゼンテーション。 ※4分間以内	提示した課題に制限時間内に解答していただきます。	
最終審査		開発したアプリケーションのプレゼンテーション。 ※4分間以内		提示した設問に制限時間内に解答。1問ごとに解答をUSBメモリーに保存し、運営者に提出していただきます。正答率、解答の速さで順位を決めます。	
発表形式	・作品を使ったプレゼンとなります。 ・発表用スライドを使用する場合のサイズは「16:9」。事前にデータ（.pptx/.ppt）をお送りください。	・発表用スライドのサイズは「16:9」。事前にデータ（.pptx/.ppt）をお送りください。 ・ノートPC以外で、発表に必要な機材があれば全てご用意ください。			
ファイナリスト （応募状況により変動）	5組	5組※2	5組※2	両部合わせて計15組	
部門優勝（1組） 副賞	賞金5万円	賞金30万円	賞金30万円	賞金30万円	賞金10万円
備 考	個人または1チーム1作品。1人が複数のチームに所属することはできません。				
スケジュール	①エントリー受付開始 2022年5月 1 日（日） ②エントリー応募締切 2022年6月19日（日） ③1次審査・結果発表 2022年7月 1 日（金） ④2次審査 2022年7月23日（土） @会場：上毛新聞社 ⑤ブラッシュアップ研修 2022年8月上旬 @会場：上毛新聞TR ⑥最終審査 2022年8月20日（土） @会場：ベイシア文化ホール				

※1 応募状況により実施しない場合がございます。

※2 ファイナリストには、協賛社より製品化に向けた支援の打診がある場合がございます。



実施体制

■事業名：ぐんまプログラミングアワード(GPA)2022

■日程：2022年8月20日(土)

■会場：ベイシア文化ホール(群馬県前橋市日吉町1-10-1)

■実施体制

主催：上毛新聞社

共催：ぐんまプログラミング教育推進協議会

特別協賛：クライム

協賛：コシダカホールディングス、ジンズ、アイエムエス、共愛学園前橋国際大学、ぐんぎんシステムサービス、群電、ジーシーシー、シャープドキュメント富士、JOETSU、情報システム、太陽誘電、中央カレッジグループ、テクノソレイユ、ドコモCS群馬支店、日東システムテクノロジーズ、プランニング、プロコード、ペリテック、両毛システムズ【順不同】

後援：総務省、群馬県、群馬県教育委員会、群馬県情報サービス産業協会(GISA)、ソフトウェア協会、群馬テレビ、エフエム群馬

運営協力：共愛学園前橋国際大学、群馬大学、高崎健康福祉大学、高崎商科大学、中央カレッジグループ、前橋工科大学

■目的：①プログラミング人材の発掘、育成
②ICT人材養成の重要性を広く社会に発信
③プログラミング教育の普及推進

■内容：プログラミング作品や、スキルを持つ人材を募集し、完成度や習熟度を評価、表彰する。
教育現場での関心が高まるプログラミングの楽しさや必要性を伝える。

■審査員：浅尾 高行 氏 群馬大学数理データ科学教育研究センター長
宇留賀敬一 氏 群馬県副知事
金井 修 氏 (株)クライム代表取締役
鈴木維一郎 氏 (一社)共同通信社情報技術局次長・将来技術開発室長
福田 尚久 氏 前橋工科大学理事長・日本通信(株)代表取締役社長
前田 善宏 氏 デロイトトーマツグループ執行役CSO
内山 充 氏 (株)上毛新聞社代表取締役社長・主筆



浅尾 高行 氏



宇留賀 敬一 氏



金井 修 氏



鈴木 維一郎 氏



福田 尚久 氏



前田 善宏 氏



内山 充 氏

人材育成

IoTスクール

群馬県内の高校生を対象にした「IoTスクール」を2022年4～7月に計3日間、開講しました。3人一组での応募を呼び掛けたところ、8校から計12組36人のエントリーがありました。このうち6組18人にご参加いただき、群馬大学数理データ科学教育研究センターにご協力いただき開発し

た教材で、IoT技術の習得と、オリジナルデバイスの製作を後押ししました。

各組に群馬大学や学生団体「PPP-C」に在籍する大学生がメンター（助言者）として加わり、前橋市のIT関連企業、サンダーバード株式会社も各工程をサポートしました。完成した作品はGPAのIoT部門に出品し、2組がファイナリストとなり、うち1組が特別賞を受賞しました。



リスキリング講座「初めてのPython」

GPAにご協賛いただいた企業様を対象にプログラミング言語「Python（パイソン）」を初歩から学ぶ講座を開講しました。全5回をオンライン形式で実施し、計10社の従業員様にご参加いただきました。講師は群馬大学大学院理工学府助教の茂木和弘先生にお務めいただきました。



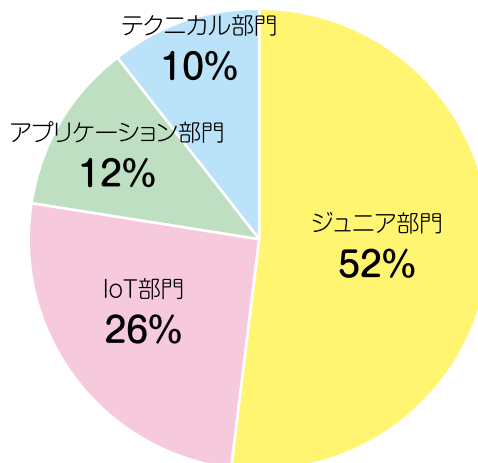
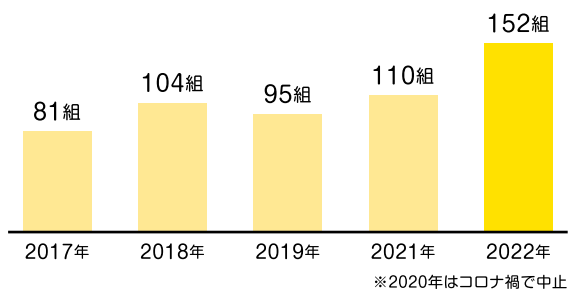


応募状況・審査経過・最終審査タイムスケジュール

【応募状況】

■ 応募総数	152組
◎ ジュニア部門	79組
◎ アプリケーション部門	18組
◎ IoT部門	39組
◎ テクニカル部門	16組

過去最多の152組がエントリー



エントリー部門の割合

【審査経過】

① 5月1日(日)〈エントリー受付開始〉

② 6月19日(日)〈エントリー締め切り〉

③ 7月1日(金)〈1次審査・結果発表〉

書類選考を経て合格者に通知。

④ 7月23日(土)〈2次審査〉

ジュニア、アプリケーション、IoTの3部門計88組が参加。

⑤ 7月24日(日)〈最終審査出場者発表〉

上毛新聞紙上で3部門のファイナリスト計15組を公表。

⑥ 8月20日(土)〈最終審査〉

ファイナリストによる最終プレゼンテーションと競技を実施。
各部門から優勝者を決定。
エントリーいただいた小学生から1組を、全国新聞社事業協議会主催の2022年度全国選抜小学生プログラミング大会の群馬県代表として選出した。

【最終審査タイムスケジュール】

ベイシア文化ホール（群馬県民会館）

12:00 開場

テクニカル部門 競技開始

13:00 オープニング

テクニカル部門 実況中継（随時）

13:03 AKAGIDAN×ボカロライブ

13:18 ジュニア部門 プレゼンテーション

13:46 アプリケーション部門 プレゼンテーション

14:24 さとう麻衣 ライブ

14:39 IoT部門 プレゼンテーション

15:00 テクニカル部門 競技終了

15:22 ゲストパフォーマンス

- 伊佐碩恭 & アンカンミンカン
特別授業「テクニカル問題を解こう！」
- せきぐちあいみ トーク&パフォーマンス

16:27 審査結果発表・表彰式

17:17 終了

ファイナリスト

※学校、学年はいずれも応募時のものになります。

Internet of
Things

IoT部門

小～大学生・専門学校生

IoT機器のアイデアと完成度を競います。



① 桐高物理部 Smooes

群馬県立桐生高等学校 3年

石川 天琉／萩原 航平



② Sii

群馬県立中央中等教育学校 5年

斎藤 煌生／池田 隆一郎／岩井 靖恭



③ 高高_物理部_部長

群馬県立高崎高等学校 3年

佐藤 弘基



④ High Well Pond 2-1

群馬県立高崎高等学校 2年

高橋 拓／井田 翔琉／池上 劉虎



⑤ 前東IoT同好会

群馬県立前橋東高等学校 2年

小林 遥斗／石川 歩乃圭／新井 大智



TECHNICAL

テクニカル部門

一般

プログラミング問題の正答数と解答スピードを競います。



① かんがるーず

前橋工科大学 3年 秋葉 優輝

群馬大学 4年 竹内 蒼空



② 人民共和国

群馬県立高崎高等学校 2年

根岸 孝次／齊藤 孝介



③ Desperado

中央情報大学 2年

塩田 海斗／森田 流碧／中澤 豪



④ Hack Master

東京電機大学 3年 高矢 空
東京電機大学 3年 伊達 大輝
灘高等学校 3年 林 慶一郎

⑤ 群馬工業高等専門学校 4年 水野 哲郎





ファイナリスト

※学校、学年はいずれも応募時のものになります。

JUNIOR

ジュニア部門

小・中学生

ゲームや動画などのソフトのアイデアを競います。



①(株)こんにちばぐんま支店

前橋市立第一中学校 2年 矢澤 枢
前橋市立桃井小学校 5年 矢澤 至



②しとらす びいち

新島学園中学校 1年 上田 桃
前橋市立元総社小学校 4年 上田 柚



③ZENMAI

群馬大学共同教育学部附属中学校 2年
堀内 美涼



④第五プログラムneo

前橋市立第五中学校 3年
伊藤 颯飛／小池 鏡



⑤ 前橋市立大室小学校 6年 萩原 豊基



APPLICATION

アプリケーション部門

小～大学生・専門学校生

アプリケーションのアイデアを競います。



①M#

群馬県立前橋高等学校 3年
野村 恒晴／茂木 朋愛



② 群馬県立高崎高等学校 1年 黒澤 駿



③ 茨城県立水戸工業高等学校 3年 清水 飛翔



④高崎高校041540(チームみのわ)

群馬県立高崎高等学校 1年
吉澤 柊聖



⑤高々 物理部 吹部

群馬県立高崎高等学校 2年
高田 悠希／寺田 光里



GPA2022 ファイナルステージ

ぐんまプログラミングアワード(GPA)2022の最終審査は、出場者がスクリーンに映像や資料を映し出しながら、自らのアイデアや開発への思いを語りました。GPA公式Vチューバーの鶴乃舞と本県のご当地アイドル「AKAGIDAN」がオープニングを飾り、2次元と3次元を融合させた歌とダンスのステージを披露。鶴乃舞は、アナウンサーの奈良のりえさんとともにイベント全体の司会も務めました。

参加者の発表の合間には、渋川市出身のシンガー・ソングライター、さとう麻衣さんが登壇し、GPAの公式テーマソング「プログラミングG」と、本県愛を込めた「グンマ」を熱唱しまし

た。テクニカル部門を4連覇して“殿堂入り”した伊佐碩恭さんはお笑いコンビ「アンカンミンカン」とともに特別授業を行い、プログラミングを使った課題解決の考え方や、実際に打ち込んだプログラムの意味を解説しました。VR(仮想現実)アーティストのせきぐちあいみさんは、メタバース(仮想空間)に3Dのフェニックスを出現させるパフォーマンスを披露しました。

協賛企業によるブースのほか、群馬大学が手掛ける自動運転バスや電気自動車を展示。配膳ロボットやVRジェットコースター体感アトラクション、搭乗型ロボットも人気を集めました。



電気自動車・自動運転車



アトラクションコーナー



企業ブース



AKAGIDAN×鶴乃舞 ライブ



司会の奈良さん



テクニカル部門 会場風景





ファイナリスト

※学校、学年はいずれも応募時のものになります。

TECHNICAL

テクニカル部門

高校生以下

プログラミング問題の正答数と解答スピードを競います。



⑥会津工業高校

福島県立会津工業高等学校 2年

星 奏多／渡部 丞陽



⑦太田東高校情報処理

群馬県立太田東高等学校 3年 長谷川 叶拓
群馬県立太田東高等学校 2年 坂本 湧善
群馬県立太田東高等学校 1年 高橋 陸



⑧クジラアタマの王様

群馬県立高崎高等学校 1年

細田 晃佑／常見 健太



⑨坂上一輝

群馬工業高等専門学校 2年

坂上 一輝



⑩しゅーあらくれーむ

静岡県立島田工業高等学校 3年

杉山 愛実／富澤 優希



⑪TMCIT

東京都立産業技術高等専門学校 2年

笹川 駿／槇本 洪圭



⑫豆腐

東京工業大学附属科学技術高等学校 2年

下田 一颯



⑬hiikunZ

武蔵中学校 3年

松葉 大和





IoT部門 (Sii)



IoT部門 (桐高物理部 Smooes)



伊佐碩恭&アンカンミンカン 特別授業



せきぐちあいみ トーク&パフォーマンス



観客席



審査員



フィナーレ



GPA2022 ファイナルステージ



テクニカル部門 (hiikunZ)



テクニカル部門 (水野哲郎さん)



テクニカル部門 (TMCIT)



ジュニア部門 (萩原豊基さん)



ジュニア部門 (第五プログラムneo)



ジュニア部門 (しとらす ぴいち)



アプリケーション部門 (高々 物理部 吹部)



アプリケーション部門 (M#)



さとう麻衣 ライブ



IoT部門 (高高_物理部_部長)



審査委員会賞／優勝 テクニカル部門・高校生以下

hiikunZ

武蔵中学校 3年
松葉 大和 さん

一般含め正解数最多

唯一出場した中学生が、鮮烈なGPAデビューを飾った。一般の部も含めて同じ問題が課される中、16問中13問に正解して44点を獲得。三つの高難度問題も全て正解した。一般の部の優勝者にも20点以上の大差をつける圧倒的な勝利だった。

開始1時間のうちに高難度の2問を正答。その後も勢いは止まらず、次々に問題を解いていった。

残りわずかとなった時間帯にも、「採点待ちの時にひらめいた」という最後まで分

からなかった高難度の問題をクリア。会場はどよめき、大きな拍手が送られた。

友人に勧められ、中学1年から独学でプログラミングを始めた。「問題を解くのが楽しい」と純粋な気持ちで打ち込んだ。今年5月には、オンラインで開催されたアジア太平洋情報オリンピックに日本代表として出場。銀メダルを獲得するなど、めきめきと力を伸ばしている。

今大会での活躍が評価され、特別賞の審査委員会賞も受賞した。「優勝できてうれしい。次は一般で出場して、もっと正解して優勝したい」と早くも来年の活躍を誓った。

「将来はプログラマーとして世の中に役立つ仕事をしたい」。夢の実現に向け、さらに知識や技術を蓄えていくつもりだ。



コシダカ賞 ジュニア部門

第五プログラムneo

前橋市立第五中学校 3年
伊藤 颯飛 さん／小池 鏡 さん

プログラミングアプリ「スクラッチ」の基礎を学べるプログラムを考案した。原点にあるのは「多くの人にプログラムが動く喜びを味わってほしい」との思い。基本的なアプリの仕組みから本格的なゲーム作りまで、操作方法を段階的に身に付けることができる。

2人は自然科学部の活動の一環でプログラミングを学ぶ。昨年に引き続き出場し、悲願の入賞を果たした。「アプリやIoTの部門にも出たい。高校に進学してもこのペアで」と口をそろえた。



《副賞：図書カード、まねっきーぬいぐるみ》



JOETSU賞 ジュニア部門

しとらす ぴいち

新島学園中学校 1年 上田 桃 さん
前橋市立元総社小学校 4年 上田 柚 さん

仲良し姉妹が、47都道府県の位置や名前、特産を楽しむ学ブゲーム「はっけん!! 都道府県!!」で、昨年のコシダカ賞に続く企業賞に輝いた。「びっくりしたけど、2年連続で受賞できて本当にうれしい」と喜ぶ。

桃さんがプログラミングを組み、アイドル志望の柚さんが絵などを担当。本番のステージでは、柚さんが四国4県を全問正解してみせた。

開発から発表まで、姉妹がそれぞれの特技を結集し、賞をもぎ取った。



《副賞：商品券》



ジンス賞 IoT部門

Sii

群馬県立中央中等教育学校 5年
斎藤 煌生 さん／池田 隆一郎 さん／岩井 靖恭 さん

インターホンが聞こえず、宅配便の不在票が届いていた。岩井さんの祖母の体験から、高齢者や聴覚障害者が安心して暮らせるよう、家電の通知音をスマートフォンに伝える機能を考案した。

家電の通知音をマイクが集め、小型コンピュータ「ラズベリーパイ」が認識すると、スマホに通知される仕組み。3人はGPAの関連行事「IoTスクール」で知識を深めた。「さらに改良して持ち歩けるようにしたい」と意欲を見せた。



《副賞：JINS MEME》



ペリテック賞 IoT部門

桐高物理部 Smooes

群馬県立桐生高等学校 3年
石川 天琉 さん／萩原 航平 さん

道路のへこみをカメラと人工知能(AI)で検出し、位置を地図上に表示するシステムを開発した。早期の補修や通行者の転倒防止に役立てる。2人が自転車通学時に、直されないままになっているへこみを見つけたのが研究のきっかけだ。

昨年もIoT部門に出場した2人。石川さんは「念願の賞が取れてうれしい。人のためになるプログラミングをしていきたい」と喜ぶ。萩原さんは「この経験を将来に生かしたい」と声を弾ませた。



《副賞：パソコン》



クライム賞 テクニカル部門・高校生以下

TMCIT

東京都立産業技術高等専門学校 2年
笹川 駿 さん／榎本 洪圭 さん

「解き方が頭で分かってもコードを書くのが難しかった」と振り返る。2人はプログラミング研究部に所属し、学校にあったポスターを見て参加を決意。過去問題などを解いて備えた。

「高難度の問題が解けた時は本当にうれしかった」と笹川さん。残り1時間で逆転の2位になるきっかけをつくった。榎本さんは「実力を出し切れなかった」と悔しさをにじませた。それでも「めっちゃ楽しかった」と笑顔で口をそろえた。



《副賞：パソコン》



上毛新聞社賞 アプリケーション部門

M#

群馬県立前橋高等学校 3年
野村 恒晴 さん／茂木 朋愛 さん

文化祭実行委員としてコロナ禍でも安心して文化祭を開きたいと、来客の入退場やブースごとの混雑状況を把握できる管理システム「Marronnier」(マロニエ)を開発。新たな機材を導入しなくても、既存の端末で利用できる利点をアピールした。

中学から独学でプログラミングを習得したという2人。「プログラミングが大好き」と声をそろえ、「将来は情報技術を他分野にも応用できる人材になりたい」と力を込めた。



《副賞：クオカード》



受賞者紹介



MVP／優勝 IoT部門

高高_物理部_部長

群馬県立高崎高等学校 3年

佐藤 弘基 さん

デジタルで職場再現

昨年のGPAでは教室の換気に関するシステムで企業賞に輝いたが、部門賞を受賞できなかった悔しさから今回は「リベンジしたい」と臨んだ。デジタル空間上の職場を提供する次世代型コミュニケーションツール「クロス・ルーム」は審査員から「今すぐ商品化できる」と高く評価され、部門賞のみならずMVPまでつかった。

職場に設置されたウェブカメラなどにより3Dで職場を再現、在席状態を確認でき、ストレスなく連絡を取り合えるツール。ボイスチャット機能を搭載することで、別

のフロアやリモートワーク中の人との会話も可能となる。佐藤さんは「離席から戻ったら通知される仕組みを設ければさらに便利になる」と改善点を話す。

「プログラミングは自分で考えて作れるところが楽しい」と魅力を語る佐藤さん。「クロス・ルーム」には「夏休みを全てつぎ込んで」取り組み、顧問の岡田直之教諭(39)のアドバイスを受けながら、システムの構築や分かりやすい発表の仕方に工夫を重ねた。

将来は情報系の分野に進みたいと考えている。「プログラミングはどんな分野でも役立つツール。普及していないところでこそ、知ってもらえるといい」と力強く語った。



優勝 ジュニア部門

前橋市立大室小学校 6年

萩原 豊基 さん

スクラッチ独自改良

「プログラミングの楽しさをみんなに伝えたい。そのためには使いやすいアプリがないと」。そんな思いから、プログラミングアプリ「スクラッチ」の操作方を簡略化した独自のスクラッチを開発した。

ユーザーの目線に立ち、従来のアプリよりも単純かつ感覚的に使えるようこだわった。「前に進む」「鳴く」などと指示が書かれたブロックをタップするだけで、簡単にプログラムが組めるよう設計。多角形など複雑な図形を簡単に作成できるボタン

も新たに追加、作業効率を各段にアップさせた。

プログラミングに出合ったのは小学4年生の時。図書館で本を借り、独学で知識を身に付けた。自分で作ったプログラムがその通りに実行されたうれしさは、今も忘れられない。「毎日パソコンに向かって作業を続けた結果が出た」と、初出場で栄冠をつかんだ喜びはひとしおだ。

これまでに作成したゲームは50種類以上。絵を描くのも趣味で、デザインに役立っている。何よりの励みは、実際にプレーした家族が喜んでる姿を見ることだという。「動作の複雑な格闘ゲームを作るのが目標。プログラミングの魅力を広めていけるようなプログラマーになりたい」と夢を語った。



優勝 アプリケーション部門

高々 物理部 吹部

群馬県立高崎高等学校 2年

高田 悠希 さん / 寺田 光里 さん

穴埋め問題自動作成

参考書の写真を撮影し、覚えたい単語をスキャンすることで、自動で穴埋め問題を作成してくれる学習アプリ「AUTO QUEST」を開発した。

寺田さんはこの日、所属する部活動の部員がコロナの濃厚接触者になったため急きょ欠場。一人で発表した高田さんは「寺田君がいなくて残念だが、努力が報われて良かった」と喜んだ。

世の中には多様な検定や資格がある一方、教材が簡単に手に入らない現実があ

る。学校の学習だけでなく、新聞記事から時事問題を作成できるなど、さまざまな方法で活用できるアプリに仕上げた。

高田さんは昨年のIoT部門で優勝した実力者。3カ月前まではプログラミング未経験だったという寺田さんが、「高田君の才能を身近で学びたい」とチーム結成を願い出た。受賞の報告を受けた寺田さんは「高田君の妥協しない姿勢を尊敬する。一緒にやって良かった」と話した。

今後は利用者の情報を蓄積し、単語を入力しなくても自動で問題作成できるようにすることが目標。「興味がある分野に、誰もが気軽に挑戦できる手助けをしたい」と意気込んでいる。



優勝 テクニカル部門・一般

群馬工業高等専門学校 4年

水野 哲郎 さん

ネット上で腕磨きV

この部門で4連覇を果たしていた伊佐碩恭(ひろたか)さんが「殿堂入り」し、絶対王者が不在となって迎えた今大会。初出場の水野さんが16問中6問正答の18点を獲得し、新たな王座に就いた。「優勝できてうれしい気持ちでいっぱい」と喜びを語った。

群馬高専への入学を機に、3年前にプログラミングを始めた。その後、速さや正確性を争う競技プログラミングを始めると、パズルを解くような感覚や人間の頭脳では処理できない問題が解ける楽しさに夢中になった。

研鑽(けんさん)の場は主にインターネットだ。専門のサイトで、正解を導き出す手順や計算方法を示す「アルゴリズム」や「データ構造」について学ぶ。週末には世界中の強者が集う競技プログラミングのオンライン大会に参加し、腕を磨いてきた。

実地開催される大会への参加は今回が初めて。「勝手が違いすぎてしまっただけ。もう少し解けたのではという気持ちには正直ある」と悔やむ。ただ、収穫も大きかった。「対戦相手の顔が見えたことは刺激になった。もっと勉強したい」

来年は大学編入試験が控えるが、可能な限り出場したいと考えている。「今回の経験を生かし、もう少し落ち着いて臨みたい」と連覇を見据えた。





紙面・新聞広告・ウェブ展開

総 評

審 査 員

群馬県副知事

宇留賀 敬一 氏

世界のニーズを具体化

昨年もこの場に立たせていただいたが、1年前と比べて今年は格段にレベルが上がったというのが印象。県はGIGAスクール構想で、小学生から高校生までやって良かったと実感した。

MVPの佐藤弘基さんは、ポイントになったのが身近な課題から世界中が必要とするようなニーズをしっかりと具体化した。コロナが3年続いているが、東京に行く機会が減って、一方で世界中のニュースが入って来るが増えてきた。東京への距離感が遠くなったが、世界が近くなったと感じている。

これから大学に行ったり、働くという時にも、世界を意識して働き、プログラミングの力で世界を変えていく。そんな人が出てきたと実感した。



審 査 員

前橋工科大学理事長・日本通信（株）代表取締役社長

福田 尚久 氏

発想の原点 素晴らしい

とにかく素晴らしかった。感心、感動したのは発想の原点だ。「今困っている、学校みんなのために」といった誰かのためにデジタルの力を使って解決する。（出場者は）その発想の原点が素晴らしい。

点数の差が付いているのは、困っている問題をどうしたら解決できるのか、こうしたらもっと良くてできる、こうしたらどうかと、ずっと考え続ける。結果に関して言えば、それを考え続けて、工夫をし続けて、これでいいやと終わらなかった方々が最終的には高得点を取られたと思う。

皆さんの発想の原点を大切に、徹底して追いかけていただけたらもっとレベルアップする。審査員泣かせのレベルの高い大会だった。



※肩書は当時



GPA関連行事でICT講演会

前橋発 先進事例にも



DXによる本県の可能性について意見を交わす福田さん(右)と前田さん

福田さんは福田、DXの
うち「大切なのはトランス
フォーメーション(変換)
だ。デジタルは道具に過ぎ
ない」と強調し、「デジタ
ル化」だけが過度に注目さ
れる風潮に心を痛めた。
前田さんも「変革は自由な
発想の中で、雑談など人
とのつながりから生まれ
る」と述べた。

「DXの先」テーマに対談
ぐんまプログラミングアワード(GPA)2022の関連行事として、ICT
講演会が6日、前橋市の上毛新聞社で開かれた。前橋市科大理事長の福田久さ
んと、同市に進出する企業のデジタルトランスフォーメーションの推進者である
がデジタル化DX(デジタル・トランスフォーメーション)の先にあるもの
と題して対談。政府のデジタル田舎都市国家構想に採択された県や同市の事業が、
全国や海外からも注目される先進事例になり得るなどの認識で一致した。

(取材)「先導的な事業
基盤を確立し、さまざまな
サービスが市内の人に使
われるようになる。ここ
の仕組みを全国に広げ、こ
の仕組みを生み出される
ようにする」と述べた。

とるGPAに「対し、ま
きはし「Dで「ローカルに
深く」を追求する構想を熟
くつとく。会場はどのよ
めきは会場に変わった。

て、「全国規模の事業」発
展させれば、群馬は「イン
ベーションの地」になる」
とした。

■2022.7.7付

I o T斬新アイデアを 高校生向け スクール



「今までにないアイドルグループ」について発表する受講者

「今までにないアイ
ドルグループを考える」
との課題に挑戦。IT
企業のサンダーバード
(前橋市)、山根洋平
社長がこつを教えた。
午後は元のチームに
戻り、GPAのIoT
部門に出品する作品を
考えた。高崎高1年の
青山拓純さんは「初め
ての経験だけど、面白
い」と楽しんでいた。

講座は群馬大の青木
悠樹教授や大学生団体
「PPTC」が指導
し、ドコモCS群馬支
店(高崎市)も協力。
7月に最終回をむく。

ぐんまプログラミング
アワード2022
(GPA)8月開催の
関連事業「IoTスク
ール」は別チームの3
人でグループになり、
生6チーム18人が作品
のアイデアを練った。

IoTスクール開始 プログラミング
高校生向け講座

10. Tスクールに参加する高校生



出場する。講師は群馬大数理工学一

参加者は計3回の講座を通じて独自のIoT機器を製作し、8月に開催されるGPAの「IoT部門」に

の関連行事として上毛新聞社が主催する「I・O・Y（モノのインターネット）スクール」が29日、前橋市の同社で始まり、県内の高校生18人がプログラミングの基礎を学んだ。

上毛新聞社

プログラミング力を競う
「ぐんまプログラミング
ワード(GPA)2022」

々科学教育研究センターの青木悠樹教授が務め、IT企業とのサンダーバード（前橋市）や大学生団体「PP-PC」などが学習をサポートする。

初日は同センターが開発した教材を使い、I・O・T技術の仕組みについて知識を深めた。太田玄子高2年の「若明きくらさん」は「プログラミングに興味を持って参加した。難しいけど面白い」と話した。

スクールは産官学でつくるくんまプログラミング教育推進協議会が主催し、ドコモCS群馬支店(高崎市)が講座に必要な機材の一部を提供した。(井部友太)

■2022.4.30付



きょうからGPA
エントリー開始

上毛新聞社は1日から、「ぐんまプログラミングアワード（GPA）2022」（クライム特別協賛）のエントリーを受け付ける。6月19日まで。賞金総額105万円。

募集部門は、ジュニア、アプリケーション、IoT、テクニカルの4部門。小学生から大学生までを対象に参加者を募り、いずれの部門も1人、または3人以下のチームで応募できる。参加無料。

エントリー後、1次の書類審査（結果発表7月1日）と、プレゼンテーションの2

小学生から大学生まで

次審査（7月23日）の通過者が、8月20日に前橋市のバイシア文化ホール（県民会館）で行う本大会に進む。

各部門の優勝者に賞金が出るほか、応募した小学生の中から1組が「全国選抜小学生プログラミング大会」（全国新聞社事業協議会主催）の県代表に推薦される。

GPAはプログラミング教育の普及と、デジタル人材の発掘、育成を目的に2017年から開催し、今回は5回目。大会の詳細や募集要項は公式ホームページ＝QRコード＝に掲載している。

問い合わせは平日に上毛新聞
社事業部（☎027・254・9955）
へ。



■ 2022.5.1付

上毛新聞紙面展開

上毛新聞紙面展開

佐藤さん MVP

4部門28組が競う

2022.8.21付

VRアート、歌、協賛企業ブース…
多彩な催し 戦いに花

伊佐さん特別授業

2022.8.21付

くまもとプログラミングアワード
2022

個人や3人以下のグループで编んだ発表者が、それぞれ3~4分の持ち時間でプレゼンテーションした。文化祭で実際に運用したというイベント入

プロダクトの能力や想像力を競う「くまもとプログラミングアワード」(GPA、NPO法人)と「若手開発者」の名義賞が同日、熊本市の土曜新聞社で行われた。ジュニア、アプリケーショ、IoTの各部門で、審査員を通過した作品が、自作

15組 2次審査通過

くまもとプログラミングアワード

来月20日
ファイナル

個人や3人以下のグループで编んだ発表者が、それぞれ3~4分の持ち時間でプレゼンテーションした。文化祭で実際に運用したというイベント入

審査員は、熊本市の土曜新聞社で行われた。ジュニア、アプリケーショ、IoTの各部門で、審査員を通過した作品が、自作

審査員は、熊本市の土曜新聞社で行われた。ジュニア、アプリケーショ、IoTの各部門で、審査員を通過した作品が、自作

■ 2022.7.24付

**GP A2次審査
突破へ機器制作**

さんまプログラミングアワー
D(GP A) 2回目の公開進行
事、「IoTスクール」の最終
回は10日、前橋市のこもろ新聞社
で開かれた。受講する高校生は主
組が入り制作中の機器の完成に
向けて最後の工程を進めた。

全組がくもろA・IoT部門の
1次審査を通過し、12日の大会
に挑む。群馬大学理工学データ科学
教育研究センターの青木樹樹教

上毛新聞社でIoTスクール



講師や群馬大生のサポートを受けながら
完成を目指した生徒ら

援や、IoT企業のサンダーパー
ド(前橋市) 代表の山根洋平さ
ん、学生団体「PDP・C」ら
が完成を後押しした。

伊勢崎工業高3年の茂木新
大さんは「完成度は30%くら
い。全ての問題を突破して審
査に臨みたい」と意気込んで
いた。

本大会は8月20日に前橋市の
ベイシア文化ホール(市民会館)
で開く。公式ホームページ
http://iwp-forward.jp/)
で観戦者を募集している。

■ 2022.7.11付

GUNMA PROGRAMMING AWARD 2022

ICT座談会



プログラミングの能力や発想力を競う「ぐんまプログラミングアワードGPA」上毛新聞社主催の協賛によるICT座談会が、前橋市の同社で開かれた。デジタルDXの先にあるものをテーマに、10社がデジタル・トランスフォーメーション(DX)の取り組みや課題を語り、座談会に先立って対峙した前橋工科大学理事長の福田尚久氏、デロイト・トマングルーヴ執行役員CSOの前田善宏氏が講師として参加し、デジタル化の展望やトランスフォーメーション(変革)の在り方を語った。

再教育で業務刷新
地域と共生目指す
思いを技術で実現

金井氏 田中氏 日下部氏

金井氏 本報は前橋市にあり、前橋市に根ざす。前橋市は、ICT分野で大きな発展を遂げ、地域と共生を目指す。思いを技術で実現する。金井氏は、前橋市で活躍するエンジニアとして、地域と共生を目指す。思いを技術で実現する。

「変革」で時代生き抜く

アート思考を強化
DXで働きやすく

関氏 山崎氏

関氏 本報は前橋市にあり、前橋市に根ざす。前橋市は、ICT分野で大きな発展を遂げ、地域と共生を目指す。思いを技術で実現する。関氏は、前橋市で活躍するエンジニアとして、地域と共生を目指す。思いを技術で実現する。

「デジタル化、DXの先にあるもの」

利用者目線で提案
教育から「学育」へ

尾高氏 大森氏

「価値共創」が重要

佐藤氏



山崎 聡氏 関 智宏氏 安田 浩士氏 中島慎太郎氏 佐藤 義孝氏 大森 昭生氏 尾高 一秀氏 日下部嘉彦氏 田中 仁氏 金井 修氏

多様性重視の教育
情報守る一翼担う

中島氏 安田氏

中島氏 本報は前橋市にあり、前橋市に根ざす。前橋市は、ICT分野で大きな発展を遂げ、地域と共生を目指す。思いを技術で実現する。中島氏は、前橋市で活躍するエンジニアとして、地域と共生を目指す。思いを技術で実現する。

問題提起の力 必要

前橋工科大学理事長 福田 尚久氏

課題解決の視点で

デロイト執行役員CSO 前田 善宏氏

GUNMA PROGRAMMING AWARD 2022

ぐんまプログラミングアワード 2022
FINAL STAGE
8.20土
@ ベイシア文化ホール
START 13:00・17:00 (OPEN 12:00)

プログラミングの技術や発想力を競う「ぐんまプログラミングアワード」が、3度目となる今年も開催されます。今回は、デジタル・トランスフォーメーション(DX)の取り組みや課題を語り、座談会に先立って対峙した前橋工科大学理事長の福田尚久氏、デロイト・トマングルーヴ執行役員CSOの前田善宏氏が講師として参加し、デジタル化の展望やトランスフォーメーション(変革)の在り方を語った。

主催/上毛新聞社 共催/ぐんまプログラミング教育推進協議会 特別協賛/クライム

ぐんまプログラミングアワード2022 協賛社 (順不同)

CLIMB CLIMB CO.,LTD. JINS

協賛社: 株式会社アイエムエス, 共愛学園前橋国際大学, CS, 株式会社群電, 株式会社ジーシー, 株式会社シャロコドメント富士, JOETSU, 情報システム株式会社, TAIYO YUDEN, CHUO, 株式会社, docomo, NITTO SYSTEM TECHNOLOGIES, planning, PROCODES, 株式会社ペリテック, 株式会社モリスシステムズ



5度目の開催となった「ぐんまプログラミングアワード（GPA）2022」は、28組のファイナリストが発想力や技術を駆使した発表で競い合った。成績上位者に部門賞と企業賞が贈られ、受賞者は喜びをかみしめた。

群馬から羽ばたく 発想と技術

スクラッチ独自改良

ジュニア部門
萩原 豊基君 (前橋大室小6年)



「プロダクションの楽しさ、さまざまな伝説も、そのために使いたずらアリアがない。そんな面白いから、プロダクションにまた来てほしい。」「明日に実行されないでほしい。」「今もあつたねい。」「明日、パソコに何か作業をすれば、結果が出た。と初級で通過するのだから、立てない。」「同様の投資を。」

穴埋め問題自動作成

アプリケーション部門
高々 物理部 吹部 高田悠希さん・寺田光里さん
(高橋高2年)




寺田光里さん

――寺田さん、今年も「あまのこ」の撮影に参りました。昨年と比べて、撮影の準備やスケジュールの立て方など、何か変わった点がありましたか？

寺田 そうですね。昨年と比べると、スケジュールがかなりタイトな感じがします。でも、それはいいですね。緊張感があるから、集中力も高まるし、いいと思います。

――寺田さん、この作品を通じて、子どもたちに何を伝えたいと思いますか？

寺田 私は、子どもたちに、自然の大切さや、家族の大切さを伝えたいと思います。また、自分自身で考え、行動する大切さも伝えたいですね。

――寺田さん、今後の活動について、何かありますか？

寺田 はい、来年も「あまのこ」の撮影に参ります。また、他の作品にも参りたいですね。

――寺田さん、ありがとうございました。

寺田 はい、ありがとうございました。

デジタルで職場再現

1. 〇 丁 部 門
高高 物理部 部長 佐藤弘基さん(高崎高3年)

[illegible]

ネット上で腕磨きV

テクニカル部門・一般
水野 哲郎さん (群馬高専4年)

[illegible]

一般含め正解数最多

テクニカル部門・高校生以下

[illegible]

発想の原点 素晴らしい

「さう、感心、感服だ。今
は新築の校舎だ。今
国について、学校だ
と、この校舎だ。二
三階建ての校舎だ。タ
ルの方まで行く。そ
うして、その
建物の原形を清くし
て、それでいい」

世界のニーズを具体化

なっ
行っ
時に
て働
クの
てい
てき

た方
得点
。座
点
だけ
アッ
かせ
余だ

審査員



副知事 宇留賀敬一氏

クライム賞
上毛新聞

クライム賞

上毛新聞社賞

上毛新聞社賞

クライム賞

上毛新聞社賞

くんまプログラミングアワード2022 ファイナリスト					審査員
ジュニア部門					
(株)こんには くま通信	矢野拓(前中2年) 矢野空(前高専小中1年)	New Well Pond 2-1 高野拓(同好会)	小林祐、井田雄治、池上勤也(高専高2年)	デジタル・高度化以下の部門 豊多湖(高専高2年)、会津工業高2年 長岡計研(太田高専1年)、坂本壽(太田東国2年) 高岡(佐田高専1年) 相見悠太、坂見雄二(高岡高1年) 村上(群馬高専2年) 杉本隆成、坂倉裕太(群馬高2年3年) 上野、本江(高専高2年) 高岡(高専高2年)、赤上(高専高2年) 松本大輝(高専、北星高2年)	
しらす びひち	上田祐(前高専中1年)、 上田祐(前高専光成小4年)	会津工業高校	会津工業高校		
ZENMAI	御所大智(前大付中1年)	太田東国高校情報室	会津工業高校		
第五プログラムneo	伊藤雄樹(高専高2年) 飯倉直也(前高専大4年)	クジラアタマの王様	会津工業高校		
_____	_____	_____	会津工業高校		
M#	アプリケーション部門 高田悠、大友大樹(前高専3年) 高田悠(高専高1年) 清水翔星(茨城・水戸工高3年)			上野(群馬高専2年) 杉本隆成、坂倉裕太(群馬高2年3年) 上野、本江(高専高2年) 高岡(高専高2年)、赤上(高専高2年) 松本大輝(高専、北星高2年)	
高専高専041540 (ターラ・ルボ)	高岡悠(高専高1年)	_____	_____	デジタル・高度化の層 秋葉原(前高専大2年)、竹内寛(前大4年) 御所大智、前高専(高専高2年) 沼田高、太田高専、中野(中央高専高校2校) 高専大、伊豆大(群馬高専高校大3年)、 横井(群馬高専3年) 本野明輝(群馬高専高2年)	
両々 情報部 取組	西沢雅希(高専高1年)	かきかーぶー	会津工業高校		
_____	西沢悠希、寺田光(高専高2年)	人間が主役	会津工業高校		
_____	_____	Desperado	会津工業高校		
_____	_____	Hack Master	会津工業高校		
情報文化部 Smooes	石ノ口、松本拓平(前北高2年)	_____	_____	I・O部門 御所大智、井田雄二(前、岩井湯島(中専中専5年)) 佐藤弘道(高専高2年)	
Sis	佐藤雄平、井田雄二(前、岩井湯島(中専中専5年))	_____	_____		
_____ 情報部 熱帯	佐藤弘道(高専高2年)	_____	_____		



■告知広告 全15段



■告知広告 全5段

上毛新聞広告紙面

[illegible]

■募集広告 全15段

[illegible]

■募集広告 全5段

ウェブ展開

■ PC版





ポスター・チラシ

■ 募集ポスター



■ 告知ポスター



■ 募集チラシ



表面



裏面

■ 告知チラシ



■スマートフォン版

